

岐大の いぶき

2013-2014
Autumn-Winter No. 26



【特集】

未来へ。

— 岐大の医学研究 —

— 再生医療への道 —

親知らずの細胞から臓器を作る。
そんな未来が近づいています。

「岐阜県がん・生殖医療ネットワーク」

子どもを望むがん患者を支援する
国内初の県内ネットワークがスタート



「岐阜大学グローバルレクチャー」を公開

平成25年7月19日(金)

岐阜大学の魅力を世界に発信するために、研究内容や講義を動画にした「岐阜大学グローバルレクチャー (The Global Lectures of Gifu University 略: GLG)」をウェブサイトで公開しました。英語を使用言語とし、優秀な留学生や学生を獲得すること、さらに国内外の企業や一般市民に大学への関心を高めてもらうことを目的としています。今年度は生命科学・環境科学分野の7名の教員の講義を順次公開します。岐阜大学公式ウェブサイトの日本語版及び英語版で視聴可能です。



日本語版公式ウェブサイト <http://www.gifu-u.ac.jp/view.rbz?cd=2524>

英語版公式ウェブサイト <http://www.gifu-u.ac.jp/english/view.rbz?cd=92>

平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に採択されました

岐阜大学は文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択されました。この事業は大学が地域を志向した教育・研究・地域貢献を進めることによって、地域コミュニティの中核的存在としての機能を強化することが目的です。事業名は「ぎふ清流の国、地×知の拠点創成：地域にとけこむ大学」。学部や分野の垣根を取り払って新たに「地域協学センター」を設置し、県内自治体とともに次の3つを軸に地域の課題解決に向けて取り組みます。



- 1) 地域にとけこみ活躍する人材(地域志向人材)の育成
- 2) 自治体や地域住民、大学などが地域の課題について対話する「場」の形成
- 3) 地域を志向した学際的な研究領域の形成と展開(「地域志向学」)

岐阜大学旧早野邸セミナーハウス開所式を行いました

平成25年4月26日(金)

大垣市昼飯町に岐阜大学旧早野邸セミナーハウスを開所し、学術研究のフィールドワークの活動拠点や歴史的資料の展示、地域サービスの提供・交流の場として活用しています。建物は本学第7代学長早野三郎氏ゆかりの古民家で、ご子息の早野龍五氏(東京大学大学院教授)からご寄附いただいたものです。開所式では森学長が挨拶した後、小川敏大垣市長や早野龍五氏の令夫人の早野由理氏から祝辞をいただきました。



社会資本アセットマネジメント技術研究センターが岐阜県と覚書を締結

平成25年5月27日(月)

岐阜大学研究推進・社会連携機構社会資本アセットマネジメント技術研究センターが岐阜県県土整備部と連携協力に関する覚書を締結しました。目的は橋梁などの維持補修に係る高度な技術力を持つ社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)の養成と活用で、安全・安心な地域社会の形成に寄与することが期待されます。今年度から、岐阜大学では履修証明プログラムに基づいたME養成講座を開設しています。



03-05 Topics 岐阜大学のとりくみ Apr.2013→Oct.2013

06-11 [特集] 未来へ。—岐大の医学研究—

—再生医療への道— 親知らずの細胞から臓器を作る。 そんな未来が近づいています。

大学院医学系研究科 再生医科学専攻 組織・器官形成分野
手塚 建一 准教授

「岐阜県がん・生殖医療ネットワーク」 子どもを望むがん患者を支援する 国内初の県内ネットワークがスタート

大学院医学系研究科 産科婦人科学
がん・生殖医療ネットワーク チーフコーディネーター
森重 健一郎 教授

大学院医学系研究科 産科婦人科学
古井 辰郎 准教授

12-13 ひらけ! 授業の扉

地域科学部 3年次前期必修科目「地域学実習」
学生が地域社会に出向き、フィールドワークを通して
調査・研究方法を学ぶ。

地域科学部 地域政策学科
林 琢也 助教

14-15 世界とつながる。世界に広がる。

「連合農学研究科 国際コンソーシアム」
アジア10大学と教育ネットワークを構築

16-17 岐大で生まれるもの。最先端研究の現場。

歴史を紡ぐ「方言」は、地元の財産。
岐阜の個性を発信するツールとなる。

教育学部 国語教育講座(日本語学・方言学)
山田 敏弘 シニア教授

18-19 就職の最前線へ

走り続ける実行委員メンバー
「岐阜大学学生企業展」成功を目指して

20-21 いまを駆ける! 岐大生FACE

Interview 岐阜アートフォーラム 企画運営スタッフ
大森 美瑠 さん

22 お知らせ

23 岐阜大学基金

巻末 入試情報

今回の特集は、「未来へ。—岐大の医学研究—」です。難しい言葉が紙面にあふれていますが、先生方の熱い思いを感じ取っていただければ幸いです。5世紀に中国の陳延之(ちんえんし)が書いた「小品方(しょうひんぼう)」という書物に「上医は国を医(い)やし、中医は民を医し、下医は病を医す」という言葉があります。私の大好きな言葉です。私自身は、自然災害から国民を守る地球の医者を目指していますが、今回のいぶきで取り上げた先生方の思いも同様に、小さな研究の積み重ねが、人類の幸せに繋がることが期待できます。伝教大師最澄が言うように、「一隅を照らす。これ国宝なり」が身にしみます。研究する人とは、「世のため、他人のために尽くす人」なのですね。(編集長)



MODEL 岐阜大学大学院医学系研究科
再生医科学専攻
組織・器官形成分野
手塚 建一 准教授

オープンキャンパス2013

平成25年8月6日(火)～8日(木)

今年も3日間に渡って「オープンキャンパス」を開催。約5,200人の高校生やその保護者が訪れ、盛況のうちに終了しました。各学部では学科(課程)の紹介や模擬講義、体験実習、入試説明などを実施。また、今年は岐阜大学のペットボトル水「のみやすい」を工学部棟玄関前にて配布し、「おいしい」と好評でした。この配布プロモーションは全学共通教育科目「広報・PR論入門」を受講する1年生が企画・運営したものです。学生によるキャンパスツアー、教職員や学生の相談コーナーなどもにぎわいました。多数のご来場、ありがとうございました。



第62回東海地区国立大学体育大会で男子の部が総合優勝

平成25年6月1日(土)～8月11日(日)

学生の課外活動の健全たる発展と普及を図り、学生相互の親睦を深めることを目的に、東海地区(岐阜・静岡・愛知・三重)の国立大学間では「東海地区国立大学体育大会」を毎年開催しています。今年も岐阜大学は陸上競技や水泳など20種目全競技にエントリーし、約400名の学生が選手として参加しました。各団体の健闘により、男子の部の水泳・バスケットボール・バレーボール・ハンドボール・剣道・少林寺拳法の6種目において見事に優勝し、さらに総合優勝を勝ち取ることができました。



第26回岐阜シンポジウムを開催しました

平成25年7月22日(月)

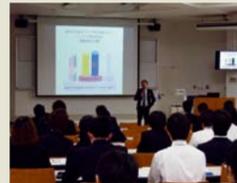
「エネルギー問題を考える スマートグリッドによる次世代エネルギーシステム」をテーマに、「岐阜シンポジウム」を開催しました。初めに東京大学大学院の江崎浩教授が、経験をもとにスマートインフラの実現について話されました。続いてタイ太陽光発電企業組合のDr.Dusit Kruangam会長が、タイにおける太陽光発電の市場の現状を紹介。最後に工学部の小林智尚教授が、気象データから太陽光発電システムの発電量を推定する研究に関して講演し、参加者は知識を深めました。



岐阜大学長期インターンシッププログラム(GULIP)の開講式を開催

平成25年8月2日(金)

岐阜大学長期インターンシッププログラム(GULIP)は、企業や公共団体から与えられた課題に、学生がチームを編成して取り組む問題解決型のプログラムです。開講式には学生48名が参加し、岐阜県庁・岐阜大学・企業などの7団体が学生に向けて課題を説明しました。今後、学生は各団体に研修を受けた後、年内に中間報告と最終成果の発表を行い、2月に報告書を提出します。GULIPを経て、学生が専門職業人としての基盤的能力を習得することが期待されます。



工学部学科改組及び創立70周年記念行事を開催

平成25年5月29日(水)

工学部の始まりは、昭和17年12月、笠松の地に岐阜県立高等工業学校を設立したことによります。移転などの幾多の変遷を経て、昨年12月、創立70周年を迎えました。また、今年4月には10年振りとなる学科改組が行われ、現在は統合移転後30年を経た建物の大規模改修工事も進行しています。記念式典には来賓やOB、岐阜大学関係者など約100名が出席。式典後は大規模改修工事が完了した場所の見学会や記念祝賀会が開かれ、終始和やかな雰囲気に包まれました。



岐阜大学医学部附属病院北診療棟開設式を行いました

平成25年5月23日(木)

6月1日(土)から運用を開始した医学部附属病院北診療棟の開設式を行いました。患者数の増加が著しい光学医療診療部と化学療法室を拡充・移設し、さらに、医師育成推進センターを新設して卒前教育と卒後研修の一貫性を図ることで、優れた医療人の育成を目指します。岩間亨病院長は「最先端の治療と快適なサービスを提供したい」と挨拶し、森秀樹学長は「関連病院との連携を強化し、地域医療の発展に期待する」と述べました。



岐阜大学フェアin飛騨高山2013を開催しました

平成25年8月22日(木)

高山市民文化会館において4回目となる「岐阜大学フェアin飛騨高山2013」を開催し、地元の高校生や企業関係者ら約250名が来場しました。このフェアは高山市との包括連携協定の一環として、市と共同主催(高山信用金庫・飛騨信用組合共催)しているもので、岐阜大学の教育、研究、社会貢献活動を知ってもらうことが目的です。会場ではiPS細胞などの最新研究のパネル展示、准教授や助教によるミニセミナー、入試案内の展示などが行われました。



教育学部附属中学校合唱部が「第80回NHK全国学校音楽コンクール」に出場

平成25年10月14日(月・祝)

教育学部附属中学校合唱部が「第80回NHK全国学校音楽コンクール東海北陸ブロック大会」で優勝し、全国コンクールに出場しました。会場のNHKホールは生徒たちが今までに体験したことのない広さで、特別な雰囲気に満ちていました。とてもよい緊張感の中で全員が一体となり、一番の歌声を響かせました。結果は優良賞。金・銀・銅賞ではありませんでしたが、全国レベルの歌声を肌で感じ、合唱の深さを実感する機会となりました。



第36・37回岐阜大学フォーラムを開催しました

平成25年5月31日(金)・7月4日(木)

一流の研究者や企業人を招いて開催する「岐阜大学フォーラム」。第36回では静岡大学名誉教授で文学博士の小和田哲男氏が、岐阜城を拠点に「天下布武」に乗り出した信長と、日本史の中の岐阜の位置づけについて話されました。第37回では株式会社パロー代表取締役社長の田代正美氏が、会社が成長する過程でアメリカのスーパーマーケットを研究したこと、経営では常に仮説を立ててきたことなどを語られました。



創立64周年記念 岐阜大学創立記念日行事を開催しました

平成25年5月31日(金)

創立64周年を祝して、講堂で記念日行事を開催し、学生や教職員ら約250名が出席しました。森学長は「岐阜大学の現状と方針」と題して、サテライトキャンパスや医学部附属病院北診療棟の新設について、研究部門の活動などについて説明。今後の取り組みとして、工学部の第2期施設改修などを挙げ、良好な教育研究環境の構築を目指すことを述べました。また、学生表彰やコーラスクラブの合唱も行われました。



手塚准教授が取り組む 研究のキーワードを 解説します

Q. そもそも細胞とは
どんなものですか？

A. 直径0.01ミリの
泡のようなものです

細胞とは直径約10ミクロン(=0.01ミリ)の薄い膜で包まれた泡のようなもの。中には核という遺伝子(DNA)が入った部屋があり、その周囲にはたんぱく質と水が詰まっています。核からの指示に従い、たんぱく質が協力して細胞を作っていきます。ちなみに人間の身体にはこの細胞がおよそ60兆個あります。

Q. 歯髄細胞は
どんな細胞ですか？

A. 歯の中にあり、象牙質や歯髄組織
などに分化する性質を持ちます

歯髄細胞とは歯の中にある間葉系幹細胞のこと。間葉系幹細胞というのは人の骨髄の中にもあり、象牙質や歯髄組織に分化していく細胞のことです。骨髄から採取した間葉系幹細胞は培養に時間が掛かりますが、若い人から抜いた親知らずの場合、まだ生えきらない段階のため、活発で短時間で多く増殖させられるメリットがあります。治療で抜いた歯などから比較的容易に入手できます。

Q. iPS細胞は
どんなことができますか？

A. 臓器や神経、筋肉など人間の
様々な細胞になれます

iPS細胞の発見以前から実は「ES細胞」というものが注目されていました。これは初期の受精卵から作られるもので、まだどの組織や器官になるか決定されていないため、臓器や神経、筋肉など人間の様々な部分になれる万能の細胞のことです。iPS細胞はこのES細胞と似た性質を持つ細胞で、特別な組み合わせの遺伝子を使って皮膚や歯などの細胞から作ることが可能です。受精卵を使うES細胞と比べて倫理面のハードルが低く、病気の原因の解明、新薬の開発、細胞移植など再生医療への応用が期待されます。

より安全で高品質な細胞を作り出し、 医療の未来に貢献できるのがやりがいです。

現在、岐阜大学医学部附属病院歯科口腔外科で診療を行いながら、歯髄細胞の培養方法の確立に向けた研究を並行して進めています。大学院生の頃から手塚准教授の下でお世話になり、歯髄細胞を取り出して培養する研究にスタート段階から携わり続けています。

今の目標は動物由来因子を排除したアニマルフリーの細胞を培養すること。細胞培養には動物由来の成分が使われることが多いですが、実際の患者に投与するとなれば外来微生物やウイルスによる感染症にかかる懸念があるため、臨床応用が可能なより安全な培養を行う必要があります。将来的には脊髄損傷の患者への臨床応用を開始する予定ですから、それまでにはより安全性の高い細胞を培養する技術を確立したいです。臨床に使える細胞を効率良く生み出すことで、今後の医療の発展に貢献できればいいと思います。



医学部附属病院歯科口腔外科 医員
(大学院医学研究科 医科学専攻 口腔病態学
分野 平成20年修了)

川口 知子 さん

研究を支えるスタッフと学生

今後の再生医療が変わる大きな流れの中で 自分の研究が活かされると思うと嬉しい。



大学院医学系研究科
再生医科学専攻 博士前期課程
組織・器官形成分野1年

千種 俊士 さん

平成25年6月から手塚准教授の研究に参加し、特殊な白血球型の歯髄細胞を収集する作業を行っています。通常、移植に重要な白血球型を両親から3つずつ、合計6つを受け継ぎます。ところが、まれに「HLAハプロタイプホモ」と呼ばれる、両親から全く同じ白血球型を受け継ぎ、その型が6種類ではなく3種類になる場合があります。拒絶反応は重要な白血球型の種類の違いで起こるため、3種類であれば多くの移植先の型と適合します。ただ、「HLAハプロタイプホモ」の細胞は非常に珍しくなかなか発見できません。そこで、白血球型が2種類同じものを持つ歯髄細胞の残る2種の白血球型のうち1種類をつぶし、人工的に白血球型を3種類しか持たない細胞にする研究も進めています。

iPS細胞の普及には現在の研究を活かした細胞生成のコスト低減が欠かせません。将来の医療に貢献する研究に携わることができ、大きなやりがいを感じています。

拒絶反応が起きにくい 特殊な歯髄細胞を発見。

山中教授と共同で高い増殖度を持つ歯髄細胞からiPS細胞を作り出す研究を進め、平成20年末にはその生成に成功しました。しかも皮膚細胞に比べ、最大40倍もiPS細胞になりやすいことが判明したのです。これは大きな成果でした。

ただ、iPS細胞から人間の臓器を作り出し、移植に使う段階に至るには、コスト以外にもさまざまな課題があります。その一つが拒絶反応です。拒絶反応は患者と移植される臓器や細胞との白血球の型の違いによって引き起こされる現象で、反応が起これば移植した組織が攻撃され、壊死してしまいます。そこで私は平成18年から20年にかけて集めた107人の歯髄細胞を調べ、移植しても拒絶反応が起き

にくい「HLAハプロタイプホモ」と呼ばれる特殊な白血球型を持つ歯髄細胞を2種類発見しました。この歯髄細胞から生成したiPS細胞であれば、日本人の約20%に移植が可能になります。

自動細胞培養装置の導入により 臨床に向けた研究が加速。

平成25年4月に経済産業省のiPS細胞等自動培養装置開発加速事業に採択され、秋には大小2台の自動細胞培養装置が導入されました。現在は培養を手作業で行っており、毎日培地を交換するなどの手間がかかりますが、この装置の導入で一部の簡単な操作を機械に任せて、管理ができるようになることが期待されます。これを使い、歯髄細胞から生成されたiPS細胞を平成26年3月までに1億個にまで増やし、

増殖前後の細胞を比較して性質の変化などを詳しく分析していく計画です。

さらに、歯髄細胞を脊髄損傷患者に移植し、神経の機能回復を図る臨床研究も準備を進めています。ラットの実際では歯髄細胞を損傷部分に移植した結果、15匹のうちの約半数が7週間まで歩けるようになりました。脊髄損傷の場合、iPS細胞の前段階である歯髄細胞でも効果が期待できるため、iPS細胞に先行して3年以内には臨床研究を始めたいと思います。

また、現在発見している特殊な白血球型の歯髄細胞は2種類のみですが、これを8種類にまで増やせば、国民の約5割に適合することが期待できます。今後は1万人分の歯髄細胞を集め、この8種類を揃えるのが目標です。再生医療資源として蓄積し、歯髄細胞バンクを構築したいですね。

臨床応用には課題が多いiPS細胞ですが、東京大学の中内啓光先生が豚の体内で他の豚の脾臓を作る実験も進めています。さきほどの多くの人に適合するiPS細胞を使って、豚の体内でヒトの心臓や腎臓が作られる…。もしかしらそんな光景がそう遠くない未来に見られるかもしれません。

手塚准教授の横顔

Q.理学部に進んだ理由は？

A.元々機械が好きだったのでDNAの仕組みを知った時、「究極の機械は生物だ」と感じました。バネや歯車の構造を知るより、生物の仕組みを知る方が奥深いと思ったのが理学部の生物物理を志した一番の動機です。iPS細胞の研究は、まさしく生物のメカニズムを知ることの極みですね。

Q.愛読書は？

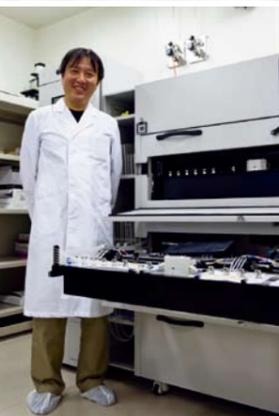
A.基本的にあまり本は読みませんが、ひとつだけ挙げるとすれば『生命と進化』という本です。一般の書店には並ばないオンデマンド専用の一冊なのですが、私が知りたい生物や進化について、これだけ包括的に網羅されている本には他に出会ったことがありません。

Q.趣味はありますか？

A.今でもやっぱり機械いじりですね。最近はバイクのヘッドライトをLEDで自作しました。プログラミングも昔から好きなので、スーパーコンピューターを自分で組み立てたこともあります。



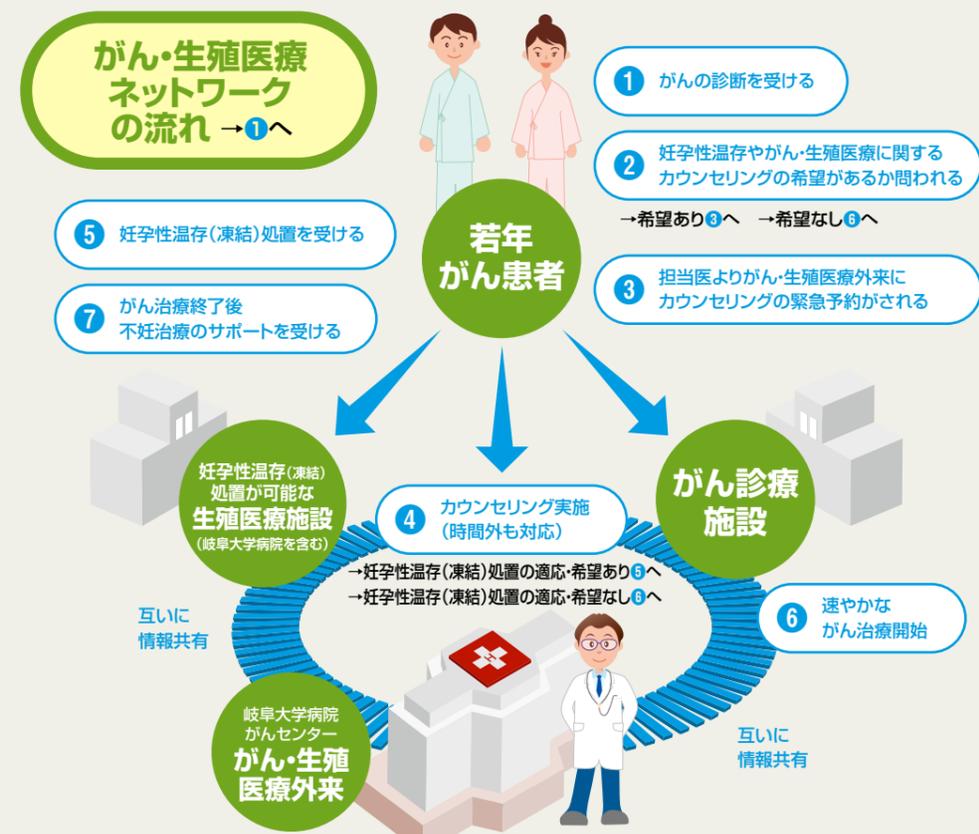
▲高度な無菌管理を行いながら細胞の処理工程が実施できる「セルプロセッシング・アイソレータ」(正面)と、小型の自動細胞培養装置(右)。▶平成25年秋に導入した最新の大型自動細胞培養装置。これにより、作業の大幅な効率化、感染リスク低減が可能に。



「岐阜県がん・生殖医療ネットワーク」
子どもを望むがん患者を支援する
国内初の県内ネットワークがスタート



がん治療によって生殖能力が低下したり、不妊になる場合があります。子どもを授かることを諦めたくないがん患者のために、平成25年2月、岐阜大学病院が中心となり、国内初の「がん・生殖医療ネットワーク」を設立。岐阜県内の23の病院やクリニックが参加しています。設立に尽力した、婦人科がんの専門医である森重健一郎教授と、生殖医療を専門とする古井辰郎准教授にお話を聞きました。



「がん・生殖医療外来」のカウンセリングについて

<http://hosp.gifu-u.ac.jp/center/gan/gan-seisyoku.html>

- 対象者 40歳未満でがん治療によって妊孕性低下が予測される方で、カウンセリングを希望し、主治医も必要と判断する方。
- 予約方法 受診している医療機関のがん治療主治医、または地域連携担当部署を通して、がん・生殖医療外来に予約。
- 相談内容 生殖医療に関する情報提供(カウンセリングと可能な選択肢の提案)を行います。治療は行いません。
- 料金 30分まで 10,500円 延長料金30分毎に 5,250円 加算 ※相談に係る費用は自費になります。

現状における問題点と、設立に至る経緯を教えてください。

森重 婦人科のがん患者は子どもを産む年齢の20代、30代の若年層が増えていきます。抗がん剤や放射線による治療の副作用で生殖機能を損なう恐れもあり、患者さんの中には子どもを諦めたくないから治療を受けないという人もいます。産婦人科医としては妊孕性(妊娠すること)の温存は常に関心事でした。しかし、がん治療の専門医は病気を治すことが第一義。患者さんに妊孕性温存の方法を質問されても不妊治療や体外受精といった生殖医療は専門外ですから、十分な説明ができず不安にさせることもありました。

古井 その背景にはがん治療が

進歩して長期生存が可能になった今の状況があり、それと並行して生殖医療の分野でも体外受精の技術が進歩し、受精卵凍結が可能になった状況があります。だからこそ、若年がん患者さんの治療後の妊娠に目が向くようになってきたのだと思います。

ネットワークの立ち上げに向けて、がん診療を行う県内35医療機関の57診療科にアンケートを送付し、若年がん患者数や治療医の妊孕性温存処置に対する認知度、患者への情報提供の現状などを調査しました。その結果、多くの医師が連携の必要性を認識していることがわかり、ネットワークへの参加協力を依頼。こうして県内23医療機関の医師110人が参加することになり、現在は岐阜県健康福祉部や岐阜県医師会の協力も得ています。

「がん・生殖医療外来」でのカウンセリングの流れは？

古井 まずは、がん治療の主治医を通して外来に予約を入れてもらい、その際に患者さんの病状や予後の情報を共有します。カウンセリングでは、がん治療によって卵巣や精巣に受けるダメージについて患者さんに詳しく説明し、それに対してどんな対策がとれるのかを話しながら相談します。患者さんが希望する対策がとれる場

合は、どのようなスケジュールで、どの医療機関で、どのような治療を受けてもらうのか具体的な治療の情報を提供します。平成25年2月から9月までに27人の患者さんが訪れ、精子保存は10人、卵子保存は受精卵も含めて3人、行われました。患者さんのがん治療が終わった段階で不妊治療もサポートします。

今後の課題と展望を教えてください。

森重 医療機関と一般の人の両方に対して、もっとアピールをしていく必要がありますね。医療関係者に対しては年に2回程度ミーティングを行い、ネットワークの成果や課題の検証をしていきます。一般の方には日々の診療の中でお伝えしますし、岐阜大学病院がんセンターや岐阜県がん情報センターのウェブページなどで情報を提供しています。もし、ご自身の主治医がネットワークのことを知らない場合があったら、患者さんの側から言ってもらうことも大切です。納得して治療を受けることが自分のためになりますからね。

患者さんのがん治療が終わった段階で、不妊治療のサポートを行っていきます。

連携によって、よりよい治療法や対策を検討し、安心して治療に専念してもらいます。



岐阜大学大学院
医学系研究科産科婦人科学
がん・生殖医療ネットワーク
チーフコーディネーター

森重 健一郎 教授

岐阜大学大学院
医学系研究科産科婦人科学

古井 辰郎 准教授

地域科学部 3年次前期必修科目「地域学実習」 学生が地域社会に出向き、 フィールドワークを通して 調査・研究方法を学ぶ。

地域が抱えるさまざまな問題を解決し、暮らしやすく文化的な地域社会を創出できる人材を育成するため、政策、産業、環境、福祉、文化など幅広い諸事象を深く探究する地域科学部は、国立大学では珍しい総合的な学部です。

3年生が必修科目として履修する「地域学実習」は、地域に向いて課題に取り組み実践的な授業。今年度は9つの授業を10人の教員が担当しています。学生はシラバスを参考に希望する授業を選ぶことができます。



①②平成25・平成24年度地域学実習調査風景 ③平成22年度住民フィードバックの様子(林琢也助教グループ)

林琢也助教グループ『世界遺産・白川郷にみる観光化の功罪』 多面的、多角的に現象を解釈し、 考える力を身に付けてほしい。

平成25年度の実習『世界遺産・白川郷にみる観光化の功罪』は、「観光」の華やかなイメージだけに留まらない負の部分も含めて、「観光」という現象を考えることが目的です。調査の事前準備として、受講生8人に白川郷の観光に関する既存の論文

地域科学部
地域政策学科
林 琢也 助教



や報告書などの資料を分担して要約してもらい、課題や有効な解決策など、これまでにわかっていないことを把握してもらいました。今回調査に行った白川村荻町は生活の空間と観光の空間がオーバーラップしています。観光化が進むことで地域が豊かになったり、知名度が向上するなどのメリットがある一方で、観光客が押し寄せることで観光公害が生じたり、住民の生活の利便性が低下して生きづらくなるといったデメリットもあります。しかし、大半の住民は観光業に従事していますから、煩わしさも含めて仕方ないと折り合いをつけているところもあるかもしれません。今回はそういった部分を重視して調査しました。学生たちは皆、観光現象や観光産業に関心を持っていて、非常に熱心に調査をしてくれました。事前に飲食店や土産物店、民宿など観光業に従事している方々に聞

きたい質問をまとめてもらいましたが、インタビューは生ものです。ですから、話をする中でより重視して聞いた方がいいと思えば、用意した質問事項にこだわらなくてもいいということも伝えていました。それに応えるように、インタビューに慣れていくに従って、次第に相手の話を聞きながらその場で質問の内容を工夫して聞けるようになっていきました。この実習を通して、将来もしこういう課題を抱えたときには自分はこのように貢献ができるかもしれない、というような未来志向の部分を持ってもらえれば実習を開講した意義があります。いろんな角度からものを見て現象を解釈し、考える力を身に付けてほしいと思っています。



学生インタビュー

実習経験が行動を起こすきっかけに



地域科学部 地域政策学科
地域政策講座3年
伊藤 未有 さん

私は観光やメディアに興味があり、地域科学部に進みました。

座学ではわからない実態を肌で感じられる「地域学実習」は意義があると思います。観光地が生活の場でもある住民の方の思いにも興味がありました。調査前に論文を読み、ネガティブな意見が多いかなと思いましたが実際にはポジティブで、みんなで観光地を作っていくという気概を感じました。思いが募り、ゼミ旅行で再び白川郷を訪れました。実習後は積極的に行動を起こせるようになりましたね。

地域振興への興味を深めた実習でした



地域科学部 地域政策学科
地域政策講座3年
浅井 政人 さん

観光業に従事する町の方々は家屋保全のために規制を受けたり、プライバシーを侵害されかねない中でも、協力して問題解消に取り組んでおられました。白川村の良さを広めたいという思いが伝わってきて、調査中は何度もジーンとしましたね。私は地域振興に関わる仕事に就きたいのですが、きっかけは地域科学部の先生方が精力的に活動されていて、勢いを感じたからです。林先生の授業や実習を受けて、ますます地域科学部に来た意味を感じています。

観光業に従事する町の方々は家屋保全のために規制を受けたり、プライバシーを侵害されかねない中でも、協力して問題解消に取り組んでおられました。白川村の良さを広めたいという思いが伝わってきて、調査中は何度もジーンとしましたね。私は地域振興に関わる仕事に就きたいのですが、きっかけは地域科学部の先生方が精力的に活動されていて、勢いを感じたからです。林先生の授業や実習を受けて、ますます地域科学部に来た意味を感じています。

世界とつながる。
世界に広がる。



「連合農学研究科 国際コンソーシアム」 アジア10大学と 教育ネットワークを構築

平成25年、東南アジア・南アジア地域5カ国10大学と連合農学研究科を結び、教育連携コンソーシアムを設立しました。各国の大学や企業をつなぐ国際的なネットワークを築き、今までにない人材交流や学びの場の提供を目指します。

この取り組みが目指すもの

- 留学生が岐阜大学で学び、その後、母国に戻って教員となり、その教え子が日本に留学するという「国際循環型教育システム」を作り上げる。
- 日本と母国との架け橋となり、アジア経済圏の発展に寄与するよう次世代のリーダーたちを育成する。

発展著しいアジア諸国と
相互に学びを深める。

鈴木(文) 岐阜大学大学院連合農学研究科は平成3年に設置されましたが、修了生の約半数が留学生でそのうち4割が母国で教員になっています。そこで、アジア各国に散らばる修了生のネットワークを活かした循環型教育システムの構築を目指して発足したのが、「国際コンソーシアム」

です。各国の有力大学で学ぶ優秀な学生を岐阜大学に招き、修了後は母国で教員になってもらう。そんな循環型教育システムを作り上げ、各国を代表する次世代のリーダーを岐阜大学から育成していくのが狙いです。平成24年7月に第1回国際会議を岐阜で開催し、10月にはアジア10大学が参加を表明。平成25年7月の第2回国際会議では正式名称と略称が採択され、本格的に活動が開始し

将来的には…

- 東南アジア・南アジアに1カ所ずつラボを建設。
- 各大学の博士課程の講義を、テレビ会議システムを使って現地にいながら受講。

アッサム大学/インド

インド工科大学グワハティ校/インド

岐阜大学/日本

ハノイ工科大学/ベトナム

ボゴール農科大学/インドネシア

ガジャマダ大学/インドネシア

スプラス・マレット大学/インドネシア

アンダラス大学/インドネシア

ダッカ大学/バングラデシュ

カセサート大学/タイ

チュラロンコン大学/タイ

ました。平成26年度は教員の相互派遣などを行う予定です。

鈴木(徹) アジアと日本の関係性はここ数年で明らかに違ってきています。今や対等なパートナーになりつつある。超高齢社会の日本にとって、アジアの若者たちの発展に寄与することは非常に有意義だと感じています。

光永 私はインドネシアからの留学生の指導や現地で共同研究を行っています。国際コンソーシアムを通じて、現地の豊富な森林資源を有効活用する場を見つけていきたいと考えています。

小山 私の担当は主にインドの各大学とのネットワーク作りです。インド工科大学などはとても優秀で、10年後には完全に対等な立場になるでしょう。最近の海外の若い学生たちにはすでに日本へのリスクペクトはなくなりつつあります。国際コンソーシアムは、日本人の学生がこうした現実を知る意味でも、とても重要だと思っています。

山下 私は社会人入学の院生ですが同期の約半数は留学生です。先日の夏合宿では一緒に生活する中で今までの各国のイメージとは違った印象を受けました。こうしてさまざまな国の方々と直に交流できるのはとても貴重だと感じています。

ライハン 私もこの国際コンソー

シアムをきっかけに、日本とアジアがもっと交流できればと思います。日本の学生にも現地に足を運んでもらい、各国の実情を肌で感じてもらいたいです。

ナヌン 私が教員を務めるガジャマダ大学では、留学生は大歓迎です。専門の化学の分野はもちろん、文化の面でもお互いに学ぶべき点は多いと思いますね。

吉田 平成25年7月には事務職員の見学からインドネシアの大学を視察しましたが、現地の発展ぶりに驚かされました。成長著しいアジアとの交流をしっかりとサポートしていきたいですね。

10年後には岐阜大学の講義が
アジア各国で学べるように。

鈴木(文) 国際コンソーシアムには、現地の大学で教員となった修了生たちをフォローアップしていく側面もあります。母国に帰ってからも、講師から教授へのステップアップを、研究支援などを通してサポートしていく。このようない貫した人材教育も大きな目的のひとつです。ここまで深い関係性は、日本国内はおろか欧米諸国のプログラムにもありません。

さらには、現地で岐阜大学のラボを建設する構想もあります。東南アジア、南アジアに1カ所ずつ研究拠点を設置し、現地の学生

と一緒に研究を行う。そんなことができればと考えています。

鈴木(徹) 地球が抱える温暖化や食糧、エネルギーの諸問題はすべて農業に関わる分野です。私たちに求められているものの大きさを考えると、国際コンソーシアムをきっかけにして、今までのやり方を壊すぐらいの意気込みで海外と積極的に交流を深めていかないといけないと痛感しています。

光永 インドネシアでは日本に留学したいという学生はたくさんいますが、経済格差から容易ではありません。そのため10年後にはこの取り組みを通して、現地で岐阜大学と同じ教育を受けられるようになり、岐阜大学を修了した称号も得られるといいなと思います。また、現地で教員の職に就いた修了生が岐阜大学で教えることで、日本の学生も外国の大学の単位を取得できる仕組みができればと思います。

小山 岐阜大学は中規模大学です。だからこそネットワークが軽いのが強みです。また大きな大学と違い、アジア諸国から積極的に留学生を受け入れてきたことは、とても大きな実績であり財産です。国際コンソーシアム

によって、私たちの大学が日本の大学の現状を打破するようなモデルケースになればいいなと思います。

連合農学研究科 修了生
(平成23年6月修了)

ナヌン アグスさん

連合農学研究科を修了後、母国・インドネシアのガジャマダ大学で講師を務めている。



連合農学研究科 修了生
(平成25年9月修了)

ライハン ジャヒルさん

交換留学生としてバングラデシュから岐阜大学へ。国費留学生として大学院へ。製薬会社勤務。

連合農学研究科
博士課程1年

山下 晋司さん

日本の食品会社で26年間、研究開発業務に従事。平成25年4月に連合農学研究科に入学。



応用生物科学部
連合大学院事務室 連合農学係

吉田 智子 係長

平成24年8月から国際コンソーシアムの事務も担当。経費や学生の健康などを管理支援。



応用生物科学部

小山 博之 教授

専門は植物科学。アッサム地方でお茶の栽培を行うなど、インドでの農業や林業の研究に注力。



応用生物科学部

光永 徹 教授

専門は天然物化学。主にインドネシアの植物が生成する、健康に役立つ有効成分の研究を行う。



連合農学研究科

鈴木 徹 教授

専門はゲノム微生物学。国際コンソーシアムでは全体の調整役を務めている。



連合農学研究科長
応用生物科学部

鈴木 文昭 教授

平成23年4月に連合農学研究科長に就任。就任1年を経て、国際コンソーシアムを設立。

歴史を紡ぐ「方言」は、地元の財産。 岐阜の個性を発信するツールとなる。

国語教育では長い間、方言をなくして共通語を使うべきという風潮がありました。しかし、今は地域が個性を持って発信できる時代。方言はその地域の人間としての個性です。岐阜県でがんばろうと思っている人たちにとって、岐阜県方言は有用なツールになります。方言という言葉の価値を知り、使うことが岐阜県民としての誇りに繋がっていくのです。

陳さん、それは
“ものもらい”の
ことですよ

山田先生、
“メンボ”って
何ですか？

石黒さん、
岐阜県ではあんまり
聞かんけどね。
関西の方やない？

それなら先生、
“メバチコ”も
岐阜県の方
言ですか？



中国・内モンゴル自治区出身

岐阜県各務原市出身

大学院教育学研究科2年
陳 蘇布道 さん

教育学部国語教育講座4年
石黒 景子 さん

岐阜大学教育学部国語教育講座(日本語学・方言学)
山田 敏弘 シニア教授

※シニア教授…岐阜大学の教育職員個人評価において、高い評価を受けた者に付与される称号

他地域との言葉の違いを知ることによって
自己のアイデンティティを確認する。



私は日本語の文法と、岐阜県の方言を専門に研究しています。方言研究を始めたきっかけは、私が生まれた岐阜県と、最初に赴任した隣の富山県とで言葉もアクセントも全然違うことに面白さを感じたからです。岐阜に戻った平成14年から本格的に研究を開始。方言を「言語」として捉え、文法的特点を中心に調査・研究をしてきました。各地域の方言集や市町村史から地道に方言を拾い集めて一覧にし、語釈や用例を付けたりして『岐阜県方言辞典』を作成中です。

また、学生と一緒に方言調査に出かけて様々な年齢層の方に「これは何と言いますか？」と聞いてまわったりもしています。私が担当する全学共通教育科目の方言にまつわる講座では、よく学生へもアンケート調査を行っています。例えば、チーム分けするときに「グーとパー」「グーとチョキ」のどちらを使うか、同じ「グーとチョキ」でも「グッチー」のように省略する地域があるなど、方言がなくなってきたりしている時代でも他県で違っていることがわかります。こうしたことを楽しんでやっていると、学生も面白がって進んで方言を調べてきてくれます。

他県の学生との会話を通じて、自分の方言の特徴を知ることが生まれた土地に興味関心を抱かせるきっかけにもなります。地域人としてのアイデンティティを言葉から獲得していくことを、授業では図っています。多様な言語があるから、多様な発想が生まれる。岐阜の方言に「行かあず」という言葉があります。「行かない」という意味にとりがちですが、「ず」は古い言葉の「(行か)むとす」からきている言葉ですから、意味は「行こうとする」。方言には古い都の言葉や言い方が残っています。地理的な分布を知ることや方言の一つの特徴ですが、同時に歴史を知ることでも方言の大きな価値なのです。

さきほど述べた『岐阜県方言辞典』は、1〜3巻の『語彙編』、4巻の『オノマトベ編』が完成し、5巻は『文法編』を予定しています。図書館に置いてありますから、商売や岐阜のPR、町おこしなど気軽に活用してください。岐阜で生まれ育った人間の一人として、岐阜県にある言葉の財産を大切に守りつつ、「岐阜人」としての誇りを持てるように、「方言のよさ」そして「言葉の大切さ」を話していくことが今後の使命だと思っています。

岐阜弁講座

美濃編

【ヤエル】

母「栗きんとん、買って来たよ」
娘「さっき、おばあちゃんも買って来たって」
母「ヤエてまったね」

意味: 重複する
解説: 「八重る」。江戸時代の雑俳にも「出して来る火桶・お気の短い用が八重る」とある。

【モーヤイ】

子どもたちにオモチャを渡して、
「ひとつぎしやで(ひとつだけだから)、モーヤイしやー」

意味: 共同
解説: 農村の共同作業「もやい(催合)」から。

飛騨編

【ハム】

「ちゃんと隣の人にはハムんやよ」
意味: お辞儀をする
解説: 飛騨から東濃に分布する。「這う」が語源か。「礼を言う」との意味も下呂市に見られる。

【ウタテー】

「掃除してもらって、ウタテーなー」
意味: ありがたい
解説: 平安時代から不快な感情を表す言葉として用いられてきた。相手を思いやりの不快な思いが転じて謝意となった。



子どもたちに岐阜県方言の面白さを伝えるために、山田シニア教授が作った「使ってみたい美濃と飛騨のちょっといいことば」のクリアファイル。講演先などで配布し、岐阜県の方言を広めている。

平成25年 岐阜大学学生企業展

スローガン
「始まる！君だけのSuccess Story」

就職することをゴールにしたり、大企業に入社することを目的にしたりするのではなく、その後、働き続ける中で「成功した！」と思える就職活動をしてほしいですね。(飯田さん)

開催日時
12月7日(土)、8日(日)
10:00~16:30

場所
岐阜市文化センター(催し広場)

参加企業数
172社(両日合わせて)

オリジナルセミナー
第1弾 ビジョンアップセミナー
11月6日(日)
第2弾 グループディスカッションセミナー
11月13日(日)
第3弾 自己分析セミナー
11月20日(日)
事前説明会&マナーセミナー
11月27日(日)



伊藤 祐基 さん

株式会社ATビジネス
人事部 人事グループ 人事チーム
(工学部 機械システム工学科 平成17年卒業)

学生企業展初代実行委員・
参加企業人事担当者に聞きました！

実行委員を介して各企業の魅力が
学生たちに伝わっていきます。

岐阜大学2年生の頃、友人3人でこの学生企業展を立ち上げ、初代実行委員を務めました。300社以上訪問し、約50社に参加していただきました。活動を通して、各企業の意外な業務内容や魅力を知ることができたので、視野が広がりましたね。現在は一企業の人事担当者として参加しています。実行委員が橋渡し役になって、学生に「あの企業いいよ」と伝えることで学生が来てくれることも、よい出会いの場ですね。岐大生は優秀ですが、面接になると消極的です。私は常々「知る努力」が重要だと感じていて、就職活動も同じだと思います。企業展などで社会人と積極的にコミュニケーションを取って場数を踏み、一発勝負の面接で成功してもらいたいですね。

実行委員メンバーに聞きました！

冊子責任者
工学部 機能材料工学科3年
佐野 達哉 さん

人事担当者と話す機会があるなど、貴重な体験ができると思い、今年から参加しました。実行委員長が約2週間のインターンに行った時、彼の仕事をみんなで分担したのですが、その業務量に驚きました。考えて動かないととんでもないことになることと自覚し、積極的に動けるようになりましたね。様々な企業の方と関わる中で自分の将来のことを具体的に考えていきたいです。



副実行委員長
応用生物科学部 応用生命科学課程3年
今井 那奈 さん

先輩から声を掛けられて2年生の頃から参加しています。昨年やり残したことをやり切りたい、という思いから今年も実行委員になりました。副実行委員長の仕事は、企業の方へ送る資料を作成したり、手が回らないメンバーたちを手伝ったりすること。今、参加者の笑顔が見られることが一番幸せです。将来は企画をする仕事に就けたいですね。



GROW UP!

メールのやりとりで失礼があって、企業の方からお叱りを受けました。この経験を次ににつなげたい。(今井さん)

GROW UP!

企業の担当者として上手に話せないことに気が付き、苦労するメンバーが多い。そこから挑戦が始まりますね。(飯田さん)

GROW UP!

委員長専用の携帯を受け取ったときに責任を実感しました。(飯田さん)

学生企業展当日に向けて、奮闘しながら成長していく学生たち

12月
学生企業展本番

11月
全4回のオリジナルセミナーを開催

10月
学生企業展当日の準備(冊子校了・タイムテーブルや導線確認など当日のレジメ作成)

10月
全出展企業の情報をまとめた冊子の制作を開始

8月
新規参加の企業を訪問。社会人マナーセミナーを受講
オリジナルセミナーの内容を決定し、役割分担。各自が責任を持って動き始める

8月
ウエブサイトで参加企業の募集をかける(7/31締切)

5-7月
毎週1回、会議を行う(全4回のオリジナルセミナーを企画・学生企業展の詳細を決定・親睦を深める)
ウエブサイトで参加企業の募集をかける(7/31締切)

4月
キャリアセンター主催の「就職ガイダンス」で実行委員の募集がある

走り続ける実行委員メンバー 「岐阜大学学生企業展」 成功を目指して



毎年12月、2日間に渡って開催している「岐阜大学学生企業展」。岐阜大学生が中心となって企画・運営する就職イベントです。12回目を迎えた平成25年は企業172社、学生1,130人が参加し、大盛況のもと幕を閉じました。そして、実行委員として奮闘した学生は、3年生14人、2年生4人の計18人。参加企業を訪問して担当者の前でプレゼンしたり、オリジナルセミナーを企画したり。イベントの成功を目指して、挫折しながらも走り続ける学生たちの姿がありました。

実行委員長
地域科学部 地域政策学科3年
飯田 潤 さん



学生企業展は岐大生と地元企業とを繋げる場。 地域振興でもあると感じます。

この学生企業展は、学生が企画・運営するため会場の雰囲気はアットホームですし、学生が知りたい情報を集められます。毎年、参加企業の情報をまとめた冊子を学生に配布していますが、それには採用対象学部や社風まで記載しています。また、学生の就職意識を高めるため、事前に自己分析などの体験型セミナーも開催しています。岐大生が地域で働きかけになるイベントなので、地域振興に携わっているという意識がありますね。

今年から会場を変更するなど、 常に改善点を模索しています。

昨年参加した企業の声を参考にして、会場を環境やアクセスのよい岐阜市文化センターに変更し、ウェブサイトも見やすく作り変えました。また、200社近くが参加する企業展の企画・運営は学生にとって責任が重いので、運営方法をマニュアル化するなど、後輩たちのために何かを残していきたいですね。

意識すれば自分を変えていける、と信じて 実行委員長をやり遂げたいです。

2年生のとき、苦手なこと、例えば大勢の人の前で話すことができないことを克服したいと思い、実行委員になりました。すると、2年の終わりには学生400人の前で堂々と話すことができ、意識すれば自分は変われると感じましたね。3年生から実行委員長になり、プレッシャーに負けそうになることもあります。自分にプラスになる機会があるなら生かしたいと思っているので、やりがいを感じています。メンバーには積極的に運営に携わってほしいので、仕事の分担はそれぞれの性格に合わせて変えています。将来は、地域の経営者を支援する銀行やコンサルタント会社、地域の不動産を扱う鉄道会社など、地域振興に関わる会社に就職したいですね。

平成25年の実行委員メンバー

3年生		2年生		計18人
工学部	10人	教育学部	1人	
応用生物科学部	2人	応用生物科学部	1人	
地域科学部	2人	地域科学部	2人	





◀▶大森さんからの誘いで参加し始めた、地域科学部1年の谷野友香さん(右)と、応用生物科学部4年の黒田沙織さん(左)。稲刈りなどを一緒に楽しみながら子どもたちをサポートする。



「人間教育を大事にする、教育学部での学びが活動の原動力。」

芸術を通して社会教育活動に取り組む大森美瑠さん。
大学での実践的な学びを通して、人間教育の大切さを実感し、子どもたちの豊かな感性を育てていける“場”を作りたいと意欲を燃やす。大森さんが描く将来の夢は教師、絵本作家、アーティストと無限に広がる。



絵：大森美瑠

芸術を通して人の心が繋がることを、アートフォーラムの活動で実感。

大学の实習で学んだことが、血となり肉となつていける。私は子どもの頃から絵本作家になりたいという夢があつて教育学部美術教育講座に進みました。教育学部のすばらしいところは、「人間教育」をとても大事にしていることです。ただ教科の内容を詰め込むのではなく、子どもたちに寄り添って、子どもたちと同じ目線に立つて、共に成長していくことや、人と社会の繋がりを大事にした教育を学ぶことができます。ですから次第にただ絵がうまく描けるようになる教育は違うかなという思いが生まれていきました。

さらに1年生から4年生まで、実践の場をたくさん設けていただき、学校現場などで先生方のお話を聞く機会をいただけただことは、血となり肉となつていきます。特に教育実習校の先生方の熱意をすごく感じました。睡眠時間を削って私たち学生に向き合つて指導してくださつて。その真摯な姿勢から多くのことを学びましたね。そんな経緯もあり、4年生の頃から美術教育に気持ちが向かい始め、大学院では社会教育をもっと学びたいと思うようになりました。また、卒業論文のためにワークショップの研究を続けるうちに実際に

やってみたいと感じ、それが「岐阜アートフォーラム」の活動を始めるきっかけとなりました。子どもたちの感性を豊かにする、美術教育を目指したい。

この活動を知ったのは、彫刻家として作品の展示もされている河西准教授が声をかけてくださったことからです。参加して2年目の今年初めて企画を担当。谷汲の自然の中で「森のこどもレストラン」を開店するワークショップを考案しました。農作業や自然体験、ものづくりを通して自然を慈しむ心を育み、生きることとアートは繋がっているんだよ、ということを実験してもらいたい、という想いを込めました。子どもたちも楽しんで田植えや野菜の種蒔きをし、夢中になって食器やレストランの看板を作ってくれて、その様子を目にできてうれしかったです。思うように進まないこともありましたが、スタッフの方々に教えてもらいながら多くのことを学ぶことができました。

大学院では教育社会学や学校経営などの勉強と共に、絵画や彫塑などの専門教科も学んでいます。一人一人の感性を豊かに伸ばしていける美術教育がしたいと、改めて強く思っています。



岐阜アートフォーラム 企画運営スタッフ
大森 美瑠さん
大学院教育学研究科
総合教科教育専攻
芸術身体表現コース1年

岐阜アートフォーラム

地域社会の中心的存在の寺院を現代に活用することを目的に、平成18年にスタートした取り組み。岐阜市内の寺院の境内を芸術家に開放し、コンサートや美術展覧会、親子向けのワークショップを行っている。平成25年には大森さんの立案により、岐阜県西部の掛斐川町谷汲(いびがわちょうたにくみ)を拠点にした「谷汲プロジェクト」が加わり、農業・アート・自然体験を通して、人と自然とアートが繋がるワークショップを展開。実行委員でもある教育学部美術教育講座 河西准教授は「地域に根ざしたこのイベントは学生が子どもと関わる絶好の機会。フレンドシップ事業として岐阜大学が後援しています。参加する学生も教育学部だけでなく、応用生物科学部や地域科学部などにも広がっています」と話す。



▶▶「森のこどもレストラン」の看板に絵を描く作業では、河西准教授(上・右)や大森さんが子どもたちにアドバイス。看板用の板(右上)は河西准教授の彫塑室で丸太を輪切りにしたもの。

多くの皆様から岐阜大学基金へご寄附をいただき、心よりお礼申し上げます。

岐阜大学基金

岐阜大学基金創設の趣旨

本学が、更なる飛躍発展を遂げ、地域社会からの信頼と期待に応え、地域社会に貢献できる大学としての責任を果たすためには、流動的・機動的資金の運用が可能である基金が必要であることから、平成21年6月に創立60周年記念を契機として「岐阜大学基金」を創設いたしました。
この基金は、多くの皆様のご協力により、学生に対する奨学金や国際交流事業、特色ある研究活動への支援、地域社会への貢献事業、キャンパス整備など継続的な教育研究活動に活用することとしております。

ご寄附者芳名録

平成25年3月から平成25年9月末までにご寄附いただいた方で、掲載をご了承いただいた方を五十音順にご紹介させていただきます。また、10月以降にご寄附いただきました方につきましては、次号にて掲載させていただきます。なお、本学役職員につきましては割愛とさせていただきます。
現在、実施しております学生支援事業、教育研究活動支援事業、地域貢献活動支援事業、キャンパス環境整備事業、特定事業（寄附者が指定する事業）等を充実するために、今後とも、岐阜大学基金へより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

個人

青島 正和 様	上田 直和 様	加藤 孝行 様	坂倉 健男 様	高橋 哲司 様	中島 玄久 様	古田 菊夫 様	山内 桂子 様
足立 英彦 様	上野 康定 様	加藤 達雄 様	坂根 均 様	高橋 真理子 様	中根 竹生 様	前川 忠敏 様	山口 多朗 様
瀨美 友啓 様	宇佐美 進 様	神谷 茂 様	佐藤 勇司 様	高橋 祥泰 様	長野 富子 様	松井 武夫 様	山崎 克弘 様
安部 二郎 様	内堀 信吾 様	河井 敏夫 様	澤井 克弘 様	田口 元重 様	永見 昭平 様	松浦 惇 様	山田 次彦 様
天内 満雄 様	江崎 攝 様	川崎 保之 様	沢田 満秋 様	竹田 龍二 様	中村 横吾 様	松坂 吉偉 様	山田 雅春 様
荒川 浄信 様	尾家 一匡 様	川島 豊 様	清水 與八郎 様	田中 堯 様	成瀬 守 様	松原 永吉 様	山田 政行 様
安藤 忠彦 様	大澤 光司 様	川瀬 範毅 様	白髭 昌男 様	田中 禮人 様	西尾 久子 様	松宮 佑次 様	山田 泰稔 様
安藤 嘉彦 様	太田 勝夫 様	北川 精一 様	榎葉 正志 様	田中 瑞二 様	橋本 信明 様	三國 喜四郎 様	山田 幸男 様
井口 琢郎 様	大塚 博樹 様	北島 裕之 様	杉浦 世紀子 様	棚橋 力 様	長谷部 絹子 様	三島 健 様	山本 晃輔 様
池口 惣次 様	大野 真次郎 様	木戸 英貴 様	杉森 文雄 様	田辺 稔 様	早川 治彦 様	水野 憲一 様	山本 直明 様
石井 征亜 様	大橋 宏重 様	黒田 広子 様	杉山 茂樹 様	種部 豊 様	早矢 仕郁夫 様	溝口 敏博 様	横田 秀明 様
石川与左衛門 様	小笠原 政道 様	桑原 正彦 様	鈴木 満 様	田村 博志 様	林 正一 様	宮川 堅次 様	横山 高嶺 様
泉 洋次 様	岡田 正康 様	小池 寛司 様	瀨見 峯男 様	坪内 繁樹 様	林 吉男 様	宮城 道直 様	吉木 正 様
五十住 博之 様	小川 喜大 様	小島 哲朗 様	瀨木 秀一 様	坪内 一紀 様	原 章裕 様	宮崎 忠昭 様	吉田 正稔 様
磯野 良平 様	奥田 峻 様	小島 哲朗 様	曾我 幸宏 様	坪内 貞夫 様	坂 秀 様	宮本 俊輔 様	吉田 由希子 様
板津 義雄 様	奥田 哲司 様	小杉 紘平 様	高木 正巳 様	鶴見 昇三 様	平野 貴嗣 様	村田 和男 様	米倉 英一 様
市川潤一郎 様	奥田 伸之 様	後藤 清人 様	高田 恵一 様	手取 征夫 様	平松 義雄 様	村田 敏夫 様	米山 英一 様
伊藤 政宏 様	尾崎 政信 様	駒田 喜廣 様	高田 俊克 様	徳永 博義 様	廣江 達雄 様	森本 明德 様	渡邊 克彦 様
稲垣 正文 様	長田 直樹 様	小敷 良造 様	高田 要平 様	戸部 かほり 様	藤嶋 勇二 様	安田 和正 様	
岩田 元 様	長田 仁郎 様	近藤 孝 様	高浪 武司 様	中川 佳信 様	伏見 知彦 様	安田 寛二 様	
上井 康史 様	勝又 大助 様	酒井 祥子 様	高橋 勉 様	長塩 恵三 様	船曳 宏直 様	安田 庄一 様	

法人・団体等

(株)天野企画 様	(株)スギヤママカレントロ 様	北方自動車学校 様	三田洞自動車学校 様
(株)エヌテック 様	(有)郁文堂書店 様	岐阜信用金庫 様	
(株)十六銀行 様	(有)デルタ・システム 様	サンメッセ(株) 様	
(株)新日 様	一般財団法人井上国際交流基金 様	長良製紙(株) 様	

岐阜大学基金の詳細については、Webをご覧ください。
<http://www.gifu-u.ac.jp/view.rbz?cd=1012>



岐阜大学基金についてのお問い合わせ先
岐阜大学基金事務局 〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1番1
TEL 058-293-3276 FAX 058-293-3279 E-mail kikin@gifu-u.ac.jp

岐阜大学の地下110m から汲み上げた、カラダにやさしい軟水をペットボトル化!

『のみやすい』

濃尾平野北部の自然豊かな地にある岐阜大学。キャンパスでは、地下110mの水源井戸から採取した地下水を飲用などに利用しています。

全学共通教育科目「広報・PR論入門」では、受講生である岐阜大学1年生24名が半年間の講義を通して、この地下水を利用したペットボトルのネーミング・デザインを行い、『のみやすい』が作られました。

緑あふれる美濃の山々が育んだ天

然水を非加熱処理し、ボトリングした『のみやすい』は、数多く販売されているミネラルウォーターよりも「硬度」が低いことが特徴です。日本の水は硬度の低い「軟水」が多いのですが、その中でも岐阜大学の水は特に硬度が低く、14mg/Lの軟水です。非常にまろやかな味わいと、カラダにもやさしいことから、学生たちは『のみやすい』と名付けました。

オープンキャンパスでは、お越しい

ただいた高校生や保護者のみなさんに配付し、学生たち自身で岐阜大学の水のおいしさを伝えました。



お知らせ



岐大のいぶき No.25 アンケート報告!

前号
岐大のいぶき
No.25

前号「岐大のいぶき No.25 (平成25年6月発行)」に、たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。アンケートの結果をお知らせします!

平成22年10月発行のNo.20から「岐大のいぶき」をリニューアルし、本学保護者の皆様へもお届けできるようになりました。返送いただいたハガキのご意見は、本学広報企画室で広報誌を編集する際に検討させていただきます。同時にお送りいただくご意見は、私たちの広報企画活動のエネルギーにもなっております。ぜひ多数のご意見をお寄せ下さい。

さて、前号「岐大のいぶき No.25 (平成25年6月発行)」のアンケート結果をお知らせします!

No.25より、岐阜大学の特徴を皆様により分かりやすくお伝えできるよう、一つひとつの記事を「教育」「研究」「地域貢献」の3つの内容からバランスよく取り上げ、記事のデザインを変更したところです。年に2号の「岐大のいぶき」ですが、読者の皆様に本学の良さを理解していただきたいと思っております。

まず、皆様に興味を持って頂いた記事内容の紹介からです。特集1の「森のようちえん」は、教育・研究・地域貢献が一つの場で展開されている特徴的な活動です。前号では最も興味を持って頂きました。また5つの学

部が一つのキャンパスにある本学の特徴的な全学共通教育科目「ご飯までのフィールド科学」も、とても興味を持って頂きました。

いただいたご意見をいくつか紹介いたします。【森のようちえん】:「森のようちえんを読んで、小さな失敗やケガは良い事なんだと思いました。あまり子どもに手を出し過ぎてはいけませんね。」「保育士をしていますので、今回の「森のようちえん」の記事はとても興味深く読ませていただきました。子どもたちはとても良い体験をしていますね。」「チャレンジ支援」:「地域の大学と企業が色々な事業を行っていることが分かりました。幅広い内容で良いと思います。」「気象予報研究」:「気象予報研究の記

事に興味を持った。WEBアドレスを利用して、大量の情報を手に入れた。ありがたいです。」「ご飯までのフィールド科学」:「休耕田をレンゲ畑にしたいとも思っている。大場伸也教授様にレンゲ草の育て方や種のありか、値段等をお尋ねしたいです。」「就職の最前線へ」:「就活が難しい現在、先輩社会人の方のアドバイス記事がとても参考になりました。これから特集してください。」「デザイン」「読みやすさ」「情報量」

についての結果は、次の通りでした。No.24と比べて格段に良い評価をいただきました(カッコ内No.24)。記事デザインの変更を評価していただいたものと思っております。

岐大のいぶき No.25 ご意見の集計

<input type="checkbox"/> 広報誌のデザイン	[良い]	76.2%	(No.24: 56.9%)
<input type="checkbox"/> 広報誌の読みやすさ	[読みやすい]	68.7%	(No.24: 48.6%)
<input type="checkbox"/> 広報誌の情報量	[ちょうど良い]	79.1%	(No.24: 77.8%)

引き続き、われわれ広報企画室のメンバー一同、頑張っております。今後とも「岐大のいぶき」を、よろしく願っています。

大学オリジナルグッズを Present!



今後のよりよい誌面作りのため、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。岐阜大学広報誌「岐大のいぶき」26号に添付されたアンケートハガキのアンケートにご協力いただいた方の中から、抽選で5名様に岐阜大学のペットボトル水「のみやすい」(非売品)を1ケース(500ml 6本入り)進呈いたします。プレゼントをご希望の方は、アンケートハガキにお名前、ご住所、電話番号をご記入ください。

スマートフォン
はこちらから



http://gproject.gifu-u.ac.jp/ibuki26_quest.html

フィーチャーフォン
はこちらから



http://gproject.gifu-u.ac.jp/mobile/page_1147.html

アンケートは添付のアンケートハガキのほか、WEBサイトからご回答いただけます。ただし、プレゼントを希望される方はアンケートハガキでご応募ください。WEBサイトからは応募できません。

▶▶▶ プレゼント応募締切:
平成26年2月28日(金)必着
※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。



平成26年度入試の変更点

●個別学力検査による外国語（英語）の試験時間の変更について

120分から90分に変更

(参考) 平成26年度一般入試で外国語（英語）を課す学部— 教育学部（前期日程、後期日程）、地域科学部（前期日程）、医学部医学科（前期日程、後期日程）、医学部看護学科（前期日程）、工学部（前期日程、後期日程）

●教育学部

【前期日程】美術教育講座において面接を新たに課すこと及び配点の変更

●医学部医学科

【前期日程、後期日程】2段階選抜の実施及び予告倍率の変更（前期日程）未実施→約15倍、（後期日程）40倍→約15倍

【前期日程、後期日程】個別学力検査において面接（集団面接）を新たに課す

●工学部

【推薦入学Ⅱ】SSH（スーパーサイエンスハイスクール指定校）卒業見込者を対象とした募集の停止

【前期日程、後期日程】募集人員の変更

【前期日程、後期日程】個別学力検査において外国語（英語）を新たに課すこと及び配点の変更

●応用生物科学部

共同獣医学科において私費外国人留学生特別入試の募集の停止

※推薦入学Ⅱ……大学入試センター試験を課す推薦入学特別入試

平成26年度学生募集人員

学部・学科等名	入学定員	一般入試		特別入試				
		前期日程	後期日程	推薦入学Ⅰ	推薦入学Ⅱ	社会人	帰国子女	
教育学部	学校教育教員養成課程	国語教育	24	19	5			
		社会科教育	36	28		8		
		数学教育	24	16	8			
		理科教育	36	20	16			
		音楽教育	12	8	4			
		美術教育	10	6		4		
		保健体育	16	7	7	2		
		技術教育	10	6	4			
		家政教育	12	8	4			
		英語教育	24	14	10			
		学校教育	心理学コース	15	10	5		
	教職基礎コース	11	7	4				
	小計	230	149	67	14			
	特別支援学校教育教員養成課程	20	15	5				
	計	250	164	72	14			
地域科学部	地域政策学科	(50)	60	21	6	10	2	1
	地域文化学科	(50)						
	計※	100	60	21	6	10	2	1
医学部	医学科	107	32	35		40		
	看護学科	80	47	20	10		3	
	計	187	79	55	10	40	3	
工学部	社会基盤工学科	環境コース	60	13	14		3	
		防災コース		13	14		3	
	機械工学科	機械コース	130	37	37		6	
		知能機械コース		23	23		4	
	化学・生命工学科	物質化学コース	150	39	39		7	
		生命化学コース		30	30		5	
	電気電子・情報工学科	電気電子コース	170	34	35		6	
		情報コース		32	32		6	
		応用物理コース		11	11		3	
		計	510	232	235		43	
応用生物科学部	応用生命科学課程	80	54	10	6	10		
	生産環境科学課程	80	50	10	10	10		
	共同獣医学科	30	26			4		
	計	190	130	20	16	24		
	合計	1,237	665	403	32	131	5	1

※地域科学部の入試は学科の区別をせず学部単位で行います。所属学科は2年後期に入るときに専門セミナーの選択を通じて決定します。

詳細については、「入学者選抜に関する要項」「学生募集要項」等で確認してください。

大学入試センター試験 平成26年1月18日(土)、19日(日)

前期日程試験 平成26年2月25日(火) [教育学部実技検査、医学部医学科面接 26日(水)]

後期日程試験 平成26年3月12日(水) [医学部医学科面接 13日(木)]

「岐大のいぶき」について

「いぶき」は、滋賀・岐阜県境にある伊吹（いぶき）山と生気・活気を意味する息吹をかけて名付けられました。岐阜大学のある濃尾平野には、「伊吹おろし」と呼ばれる強い季節風が吹き込みます。これになぞらえ、本誌には、岐阜大学の活力（いぶき）を地域から世界へ感じさせたいという願いが込められています。

岐大のいぶきは Web からご覧いただけます！

<http://www.gifu-u.ac.jp/view.rbz?cd=721>



■「岐大のいぶき」についてのご意見感想をお待ちしております。

送付先 / 岐阜大学総合企画部総務課広報係 〒501-1193 岐阜市柳戸1番1
TEL 058-293-2009 FAX 058-293-2021 Email kohositu@gifu-u.ac.jp